



みみだより

No. 4 1

鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

R4. 12. 9

文責：高住

早いもので今年も残りわずかとなりました。日に日に寒くなり、大山が白く雪化粧をした姿を見ると、冬の訪れを感じます。今月は、先月お伝えしていました『人工内耳について』をお伝えします。冬は、静電気が発生しやすい季節です。人工内耳は静電気に弱いです。今回は、人工内耳の静電気による故障を防ぐ工夫についてお話しします。



静電気での人工内耳の故障を防ぐには どうしたらよいのでしょうか？



乾燥する冬は、静電気が起きやすい時期です。人工内耳の機器は、高レベルの放電（静電気）により、損傷を受けるおそれがあります。人工内耳は、静電気などによる対応策が施されていますが、人工内耳が直接放電を受けてしまったら、サウンドプロセッサのプログラムが消えたり、埋め込まれた装置の電子部品が壊れたり、損傷を生じることがあるので気を付ける必要があります。いくつか静電気を防ぐ方法をご紹介します。

○静電気の起こりにくい環境にする。

湿度30%以上にしましょう。エアコンは、空気を循環させ湿度を減少させます。暖房器具を使う時は、霧吹きを使ったり加湿器を使ったりして、乾燥しすぎないように注意しましょう。

○静電気の起こりにくい服装を心がける。

着る服の素材を、静電気の発生しにくい組み合わせにしましょう。

ウールや合成繊維は、静電気を起こしやすい素材です。

下着にはレーヨンや綿を着ると静電気が起こりにくいです。



○静電気がたまっている場合は、金属に触れて静電気を逃がす。

衣服を頭から着脱する時に、サウンドプロセッサやマイクروفオンが人に触れる前に、導電性の物質（金属製のドアの取っ手など）に触れ、静電気を逃しましょう。

○高い静電気が発生する可能性がある場合は、人工内耳を外す。

プラスチック製の滑り台や、ローラーコースター、人工芝の草スキーなど、高い静電気が発生する場合は、人工内耳を事前に外してから遊ぶようにしましょう。

人工内耳の点検をしてみましょう！

《人工内耳》

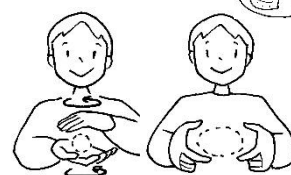
- サウンドプロセッサやケーブル、送信コイルにひびがはいっていないか。
- スイッチの反応はよいか。
- ケーブルを手で動かしたとき、音切れや変な音がしないか。
- 接続部が外れやすくなっていないか。
- フックがぐらついたり、さびたりしていないか。



ワンポイント 手話



「スープ」



「コロッケ」

「おやこ手話じてん」より

